

令和2年度プログラム編成

項目	項目詳細	目標対応箇所	カリキュラム対応箇所
審査項目 1	数理・データサイエンス・AIは、現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであること、また、それが自らの生活と密接に結びついているものであること。	数理・データサイエンス・AIと社会の関係を理解する	「データサイエンス入門」 (1)データサイエンスとは (2)教育の現場におけるデータサイエンスの現状 (3)データサイエンスとAI技術のつながりと今後の展望
審査項目 2	数理・データサイエンス・AIが対象とする「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得ること。	数理・データサイエンス・AIの社会での有用性を理解する	「データサイエンス入門」 (3)データサイエンスとAI技術のつながりと今後の展望 (9)データ解析の活用
審査項目 3	様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、数理・データサイエンス・AIは様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するものであること。	数理・データサイエンス・AIの活用事例と方法を理解する	「データサイエンス入門」 (7)データ解析の応用 (8)データ解析演習
審査項目 4	ただし数理・データサイエンス・AIは万能ではなく、その活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮することが重要であること。	数理・データサイエンス・AIの様々な留意事項を理解する	「データサイエンス入門」 (4)データリテラシー (6)データ解析の基礎
審査項目 5	実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関すること。	数理・データサイエンス・AIを実データを用いて実践できる	「データサイエンス入門」 (10~14)データ解析演習
本学独自	実際のデータ分析（データ取得、データ分析、モデル化、検証、実装）の流れを理解し、データ分析の利活用には実装を意識した一連の流れをデザインすることが必要であること。	数理・データサイエンス・AIの実践にデザインが必要であると理解する	「データサイエンス入門」 (4)データリテラシー (10~14)データ解析演習